

(様式3)

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	併設のまほろばの里在宅介護支援センターは町の委託を受けて、地域高齢者の実態把握をし、又介護予防教室を通して、地域の高齢者の介護予防に努め、又家族等の相談援助等「仲良く笑顔で歩こうよ」の理念のもとに在宅高齢者や家族を支えている。	○	より充実したサービスが提供できるように努力する。
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の「仲良く笑顔で歩こうよ」を自立支援の基として、利用者様のプライバシーを尊重し、思いやり、思いを受容し、共に仲良く笑顔で過ごせる様に取り組んでいる。	○	共に仲良く笑顔で過ごせる様、利用者様への理解をより一層深める。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念の揭示はしているが、家族様や地域への積極的な取り組みはできていない。パンフレットや重要事項説明書には記載している。	○	家族様への便りや訪問の機会を利用して理念の浸透に努める。
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の老人会の方々が畑の草引きやまほろばサロンに來られたりと顔馴染みである。	○	もっと気軽に近所の方に足を運んでいただけるよう交流を深めたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会や保育所・小学校など地域の行事に参加したり、又当施設での行事に地域の方々・ボランティアの方々に参加していただき交流を深めている。	○	より一層交流を深めるための行事のあり方を考える。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	1ヶ月に1回地域の老人会の方々に自由に参加いただけるまほろばサロンを通じて、看護師・ケアマネによる健康相談・介護保険についての話や機能訓練の実施をしている。	○	サロンを通して健康・介護予防について等情報提供していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価を通じて、当グループホームを客観的に見ることができ、サービス向上に役立てている。	○	目標水準を高めるために活用している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	過去4回運営推進会議を開催し、現状報告を行うとともに、家族様をはじめ他の委員からの意見等を聴取し、サービスの向上に活かしている。	○	グループホームをより一層理解していただける様、家族様から忌憚ない意見が聞けるようムード作りに努める。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者に運営推進会議に出席いただき協力していただいている。 会議回数も少なく、共にサービスの質の向上に取り組んでいるとは言えないが、町から広報等の連絡がある。	○	町担当者と良好な関係の構築を図り、サービス向上に努める。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修等で全員理解している。又、過去に成年後見人制度を活用したことがある。	○	いつでも必要な人には活用できるように、職員研修を行う。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法関連資料をいつでも自己研修できるようにしている。 従事者等による虐待を受けたと思われる高齢者を発見した場合、すみやかに市町村に通報する。	○	職員研修で虐待防止に向けた基本的視点等勉強していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際には、ケアマネがグループホームの様子を伝えるとともに、家族様・利用者様共に安心されるように又納得していただけるように丁寧に説明をしている。	○	より一層懇切丁寧に説明し、理解・納得していただける様にする。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者様に寄り添う支援に努め、利用者様が直接不満や苦情を訴えられた場合は、その場で利用者様・管理者・職員で話し合い希望をかなえられる様に努めている。	○	利用者様の希望や要望を言い易い雰囲気づくりと、気づきを大切にした支援をこれからも行っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者様の生活を知っていただくために行事や外出の折に写した写真や近況を伝えるお便りを郵送している。健康状態についても発熱等変わったことがあれば電話で伝えている。	○	家族様訪問時に、時間があれば個人記録を読んでもいただき暮らしぶりを知っていただける様にする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員で話し合い、家族様ともに納得していただける支援に努めている。	○	何でも話していただける雰囲気づくりをしているが、より家族様の意見聴取に努め運営に反映する。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を大切に利用者様の処遇に活かしている。提案についても実現するよう努力している。	○	何でも話し合える機会を多く作る。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の夜間の急変時等は、看護師が電話で対応を指示したり、出勤し手当をしたりしている。医療機関との連携や家族様への連絡・報告も密にしている。緊急時等は職員が残業して調整している。	○	今後も利用者様や家族様の要望に応えられるように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限にしているが、異動の場合は、前もって少しずつ時間を増やして顔馴染みになる時間を持ち利用者様も職員も徐々に慣れる様に配慮している。	○	顔馴染みの職員で安定した生活支援ができるように努める。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の理解を深めるための研修を順次受けている。	○	積極的に外部研修の受講を促し、サービス提供に努めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人として他法人との交流や研修等はあるがグループホームとしての交流はない。	○	グループホームとしての会があるのであれば参加する。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	特に工夫や環境づくりはしていない。一緒にお茶を飲んで利用者様のことを聞いて支援の大変さを共感することに努め共に解決の方法を話し合う。	○	食事会・茶話会等の機会を作り職員の話に耳を傾ける。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月目標を決めて全員で目標達成に向けて努力し自己評価をしている。	○	職員が誇りの持てる運営に努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族様やケアマネから情報収集をし、本人が併設のデイサービスを利用している時に、何気なく話しかけ本人の思いや状態把握をしている。 ○	利用者様自身から得た情報を職員全員が共有し受け止める努力をする。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	デイ利用時より家族様の介護に対する不安や悩みを聴き、家族様の思いを受け止めるように努力している。 ○	家族様との信頼関係を大切にし利用者様を共に支えられるよう、職員一人ひとりが家族様・利用者様の理解につとめる。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症対応型デイを利用しながら在宅生活ができるように支援している。又、在宅生活での利用者様の状態を知る努力をし、家族の相談にも応じている。 ○	利用者様と家族様の思いを大切に、一緒に考え良い方法が選択できるように相談や援助をしていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症対応型デイを利用していた方の入所が多く、場所・風景にある程度馴染みがあり、職員も顔見知りではあるが、環境変化で利用者様が不安にならない様に家族と協力しながら支援している。 ○	入所前に何日か招待日を作り、他利用者様とも早く馴染めるようにする。より多くの情報収集に努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様が昔に経験や体験してきた事を聞いたり、実際にしていただいたりして昔の思い出をなつかしみ喜怒哀楽を共感し合っている。 ○	利用者様を人生の大先輩として尊敬する気持ちを持ち、日常生活を通じて互いに支えあう関係を深めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	家族様の思いを受け止めながら、利用者様の日々の生活を機会あるごとに伝え、家族として改めて利用者のありのままを受け入れ、共に支えていただく努力をしている。	○	訪問の機会を多く持っていただける様に働きかける。
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族様・ケアマネ等からの情報を職員全員が共有しより良い関係が作れるよう、訪問時や行事参加等の機会を大切にしている。	○	家族様の訪問時等、ご家族だけで楽しく過ごせるよう配慮に努める。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設施設として特養やデイがあり、職員やボランティア、地域の方々も顔馴染みが多く利用者様への訪問や声かけもあり、職員も機会をとらえいろいろと配慮している。	○	住み慣れた地域へのドライブや馴染みの店への買物、地域への行事参加等を通して馴染みの人や場との関係継続に努める。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様の性格・好み等を全職員が共通認識し、利用者様の関係が悪化した時は職員が間に入り関係修復に努める。	○	その場に合った支援の方法を考え、対応できるよう普段から職員同士の情報交換に努める。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	グループホームから併設の特養へ入所される方が多いので、行事等で家族様や利用者様への声かけや相談に応じている。又、長期入院生活で契約解除となった後でも、家族様や利用者様が困らないように相談・援助をしている。	○	退所された後も利用者様や家族様に便りを出したり、行事に案内する等して家族様・利用者様との関係を大切にする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○	意思確認出来ない利用者様に対しては、家族を含め職員全員で本人本位の立場で思いや意向の把握に努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○	職員全員が入居以前の暮らしぶりを把握できるように、家族様やご本人からの情報収集に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○	職員全員が利用者様の状態をよく知る努力をし、利用者がいきいきと日々過ごせるようにする。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○	家族様へ参加を呼びかけ、その人らしく暮らせるように全職員で介護計画の作成にあたる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○	職員全員の観察力・洞察力を磨き、その人らしい生活を最大限支援できる介護計画ができるように努力する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録でその日の状態・様子を確認できる様にし、申し送り等で情報を共有し、その人にあった支援に努めている。	○	一人ひとりの情報を共有し、介護計画に活かせるように今まで以上に気づきを大切に記録する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急を要する受診への対応や家族様の都合・要望に応じられる様にしている。又、併設施設の職員と連携し利用者様の支援に努めている。	○	健康面では併設の介護・看護部門との連携の強化と柔軟な対応がよりできるようにする。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者様を支援する上で、必要とされる場合はボランティア・警察・民生委員にも協力を得られるようにしている。又、救急車の要請や消防訓練等、消防署とも連携し、生活支援している。	○	地域の方々からグループホームを理解し支援していただけるように働きかける。
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の認知症対応型デイでレクリエーションや音楽療法に参加したり、希望に応じてデイの機能訓練指導員の指導を受けたりしている。他のサービス利用はしていない。	○	併設の機能を活かしてこれからも利用者支援に努める。
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	太子町地域包括支援センターも発足して1年程で、互いに協働しているとは言えない。	○	今後必要な場合に協働できるように地域包括支援センターへの情報提供と関係構築に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者と家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が体調不良の場合は、電話やファックスで状態・症状を医師に伝え、指示又は往診を受けることが出来る。家族様や利用者様の希望で医師を選ぶことも可能である。	○	これからも安心し安定した生活ができるように支援していく。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医受診の際は、グループホームでの生活状態や身体状態を看護師が直接伝えたり、書面で伝えたりして支援している。	○	専門医等への情報提供に努め安心した生活が続けられるように支援する。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の看護職との交流はあまり無いが、併設施設の看護職員との情報交換や相談は日常的にしている。	○	機会があれば地域の看護職との交流も深めたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院があり、入院した時はグループホームの看護師や職員が状態把握に行ったり、病院からの情報提供や退院時の相談がある等連携している。	○	利用者が入院しても安心した生活ができるように、家族様と連携し支援していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化されてもご本人の意思や家族様の意向を大切に医師・家族様と話し合い、利用者が安心した生活ができるよう支援している。	○	利用者様・家族様の意見・意向を尊重しつつ安心した生活が可能になるよう支援していく。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者様・家族様の意向を尊重しつつ、医師・職員で安心した生活を継続できるように準備している。	○	全職員が共通認識で利用者様を支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の 居所へ移り住む際、家族及び本人に関わる ケア関係者間で十分な話し合いや情報交換 を行い、住み替えによるダメージを防ぐこ とに努めている	利用者が安心して生活できるよう、係わる職員 全員が利用者様の立場に立って家族様と共に良い 方法を考え対応している。	○	利用者様の情報収集と状態把握に努め、家族様と 協力しつつ、環境が変わっても精神的・身体的な 安定が図れ安心した生活を継続することができる ように支援する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	利用者様の情報を職員全員が共有しその人らしい 生活支援を心がけている。又、個人情報保護法に 基づいた取扱をし、管理している。	○	利用者様をより理解し、生活支援全般において誇 りやプライバシーを損ねることの無い支援を目指 し、ケア会議等で話し合う。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働き かけたり、わかる力に合わせた説明を行 い、自分で決めたり納得しながら暮らせる ように支援をしている	わかりやすい言葉でゆっくり、はっきりと説明す る等、利用者様が自分の思いを表出しやすい雰囲 気づくりに努めている。	○	認知症が進んでいる利用者様の思いを少しでもく み取ることができるよう、利用者様の目線で考え られる様、支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	外出や散歩、歌等、利用者様の希望に添うよう、 一人ひとりのペースを大切にしている。	○	時間にしばられることのないよう利用者様の希望 を最優先し、その人らしい暮らしができるよう努 力する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	理・美容院の出張サービスでカット・顔そり等の サービスが利用できている。毛染め・パーマも本 人の希望の理・美容院に依頼している。	○	何歳になっても化粧やマニキュア等（男性では髭 剃り）に関心を持っていただくよう配慮する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・配膳・後片付けを見守りながら利用者様と共に行い、食事に際して食欲を高め楽しく食べられるような言葉かけや働きかけを行っている。	○	おやつ作りの回数を増やしたい。
55	○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やたばこを楽しまれる利用者様は現在はいない。飲み物・おやつは一人ひとりの好みを把握し、カロリーに気をつけながら提供している。	○	週1回の買物日に、職員と一緒に出かけ楽しめるようにしたい。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁を軽減するため、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行っている。	○	夜間おむつ使用の方も、日中はおむつを外し、声かけ・誘導を行っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日に入浴しているが、それ以外に希望があれば随時入浴していただいている。	○	利用者様の希望に合わせて（時間・回数）入浴していただく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	落ち着きのなさや緊張・疲労の程度に応じて、一服したり、心身を休める場面を個別に取り入れている。	○	就寝時間の早い人や早起きの人等、生活習慣に合わせた対応を行っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの趣味（洋裁・草引き・そうじ等）を把握し、楽しく行えるように支援している。	○	重度の認知症の方にもできることは側に付き添い、一緒に行うことで達成感を味わっていただけるよう支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている利用者様は少なく、お金を使う機会がほとんどない。	○	千円～二千円程度のお金を常に所持していただき買物に出かけ、自分のお金で欲しい物を買う喜びを味わっていただきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	庭に畑を作っており、いつでも外に出て気分転換できるように畑の前に椅子を置き、お茶を飲んだり、歌を歌ったりしている。天気の良い日は近所の荒神さんまで散歩したりしている。	○	畑に花や野菜を作り、癒しの場となるような工夫をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食や喫茶店でのモーニングコーヒーに毎月定期的に出かけている。お花見や紅葉狩り等四季折々の風景を楽しんでいただけるよう外出の計画を立てている。	○	家族の協力を得ながら、外泊や墓参り等が出来る様支援していきたい。又、年に一・二回芝居やコンサートにおしゃれをして出かけるようにしたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話がかけられるよう支援している。又、便箋・封筒・切手を購入し手渡ししている。	○	年賀状や暑中見舞を出せるように援助する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族やデイの利用者様等、馴染みの方たちがいつでも気軽に訪問し、居室でお茶や食事をゆっくりと楽しんでもらうよう支援している。	○	お茶をゆっくり飲めるよう、場所の提供をし、テーブル・イスを設置する。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の理念に基づき、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。	○	身体拘束についての外部研修やケア会議での話し合いの機会を持つ。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解してお り、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいるが、時間帯に よって一時的に鍵をかけている。	○	鍵をかけることも拘束だという認識のもと利用者 様の生活支援に努め、鍵をかけないケアに取り組 んでいく。
67	○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、 昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、 安全に配慮している	何気ない気配りでプライバシーに配慮しながら、 利用者様の安全を確保している。	○	生活全般において、職員一人ひとりの気づきや配 慮で、利用者様のプライバシーや安全を確保して いく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を 防ぐ取り組みをしている	入歯洗浄剤を食べてしまおうとされる利用者様 には事務所で管理する等、一人ひとりの状態に合 わせ危険の回避に取り組んでいる。	○	うるおいのある生活ができる様にいろいろと配慮 しながら、一人ひとりの状態に合わせて危険の回 避に努めている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態 に応じた事故防止に取り組んでいる	職員全員が日々気づきを大切にし、情報を共有し ながら事故防止に取り組んでいる。	○	これからも情報を共有し、全員が事故防止に努め る。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行っている	職員は応急手当や初期対応についての知識を持っ ており、急変や事故発生の際は併設施設職員と連 携できる。又、緊急連絡網等もある。	○	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行うととも に、ケア会議等で常に職員全員で確認し、共通認 識で対応できる体制を作る。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日頃より地域の人々の協力を得られる よう働きかけている	消防訓練は併設施設と合同で年3回実施してお り、夜間想定訓練には消防署の立会いをお願い しているが、災害時の対策について特に地域 の方々へ協力の依頼等はしていない。	○	地域との交流を通して、災害時の協力をお願いす る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日頃から家族様への報告をし、現状を伝えることにしており、その人らしい生活をしていただけるように全職員で話し合っている。	○	利用者様一人ひとりの理解を深めその人らしい生活が継続できるように努力する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインのチェックと、一般状態の観察に努め、小さな変化も見逃さないよう申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有している。	○	異常の早期発見に努め、小さな変化も見逃さないよう迅速に対応できるよう努力する。
74	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が投薬管理を行っている。職員室の整理棚に一人ひとりの薬説明書のファイルを置き、いつでも確認できるようにしている。服薬後の症状の変化について情報交換を行っている。	○	薬に携わる時は細心の注意を払い、確認を十分に行い、誤薬の無いようにしている。
75	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	高齢者は便秘になる傾向にあるため、水分補給や適度な運動（散歩・ボール投げ）をレクに取り入れている。	○	外出しやすい気候になってきたため天気の良い日は散歩を行い、もっと体を動かすレクを取り入りたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、イソジンガーグルで含嗽し義歯洗浄を行っている。	○	口腔清拭により食欲の改善にもつながるため、歯磨き・入れ歯の手入れ・含嗽等の支援をし、同時に出血や炎症等の有無のチェックをしている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックを行い、食事量の少ない方にはおやつで補食したり、御家族に好みの食べ物を持ってきていただくよう依頼している。夜間の排尿後等、必要に応じて水分補給を行っている。	○	高齢になると脱水を起こしやすいため水分補給に努め、電解質のバランスが崩れないよう努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策委員会において、感染症予防の知識の確認を行うとともに具体的な予防対策を検討している。又、感染予防マニュアルについてもいつでも職員が確認し正しい予防対策ができるようにしている。手洗い・含嗽を励行している。	○	手洗い・含嗽を励行することにより感染予防に努めていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎回食器乾燥機を使用し、定期的に消毒液を使用している。	○	食材はその日のうちに使用し、冷蔵庫内は常時清潔を保っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	畑の前の風通しの良い場所に、テーブル・イスを置き、いつでも外に出て気分転換できるよう努めている。玄関には親しみやすい表札をかけている。	○	地域の方との交流をもち、畑に花や野菜を栽培し、建物周囲にはなやかさを持たせ、親しみやすくしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、手作りの貼り絵を皆で仕上げ壁に貼ることで季節を感じて頂けるように努めている。共用の空間は毎日掃除し、清潔にしている。	○	四季に応じた貼り絵や塗り絵を壁に貼り、季節感を取り入れ、時には季節の花を生けたりしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファを利用し、模様替えを行いくつろげる空間を工夫している。	○	東南の屋外にテラスを増設中。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・姿見等の家具、食器（茶碗・箸・湯のみ）等本人の使い慣れた物を使用。普段使い慣れた布団を使用していただく。	○	御家族の面会時には、使い慣れた椅子等を置き、ゆっくりとくつろいでいただけるようにしたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、換気を促す放送があり決まった時間に行っている。その他、随時行っている。	○	温度計を置き細かく調整していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴槽等に手すりを設置して、流し台のシンクも浅くする等、身体機能を活かし安全で安心した生活が送れるように工夫している。	○	車椅子で生活している利用者様にとってトイレが狭いため、安全とプライバシーの保護に努めていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	生活全般において、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。	○	トイレや部屋の目印をもう一工夫したい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	畑の前で日なたぼっこをしたり、天気の良い日は中庭でレク等行っている。	○	東と南の中庭を整備し外気浴やお茶を楽しむ空間を作っているところである。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の不安や悲しみ、願望を量り知ることは難しいが、日々支援する中で一人ひとりの思いを職員が共有し、笑顔で過ごしていただけるように、職員全員が共通認識のもと家族のような思いで自立支援している。
看護師も日勤でおり、夜間急変時にも対応し、身体的変化を見逃さず異常を早期発見し、医師と連携して利用者の健康管理に努めている。